

医師会臨床検査センターだより

No.2018-02
2018年11月19日



ノロウイルスによる感染性胃腸炎緊急情報

平成30年10月末、福岡市東区の保育施設よりノロウイルスによる集団感染が発生しました。複数の園児が嘔吐、下痢、発熱の症状を訴えこのうち6人からノロウイルスが検出されました。福岡市でノロウイルスによる集団感染が発生したのは今年に入って7例目で、これからの流行期にかけて注意を呼びかけています。

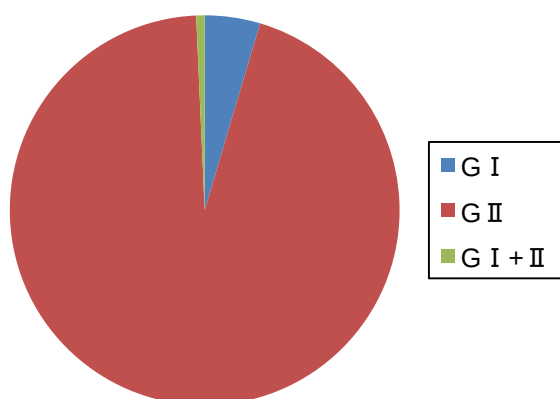
毎年、冬期にはノロウイルスによる食中毒が多く発生します。牡蠣を代表とする二枚貝の生食による感染がよく知られていますが、感染力が強いため、感染者の嘔吐物や糞便を介して感染する二次感染の方がはるかに多いことが分かっています。

平成29年3月「大規模調理施設衛生管理マニュアル」の改正が行われ、「調理従事者は臨時職員も含め、定期的な健康診断および月1回以上の検便を受けること。検便検査には、必要に応じ10月から3月にはノロウイルスの検査を含めること。」と、調理従事者等の衛生管理についてノロウイルスも明記されました。また、「無症状病原体保有者(不顕性感染者)」や「感染した後の業務復帰」に対する対応も記載されており、検出感度の高い検査法が求められています。

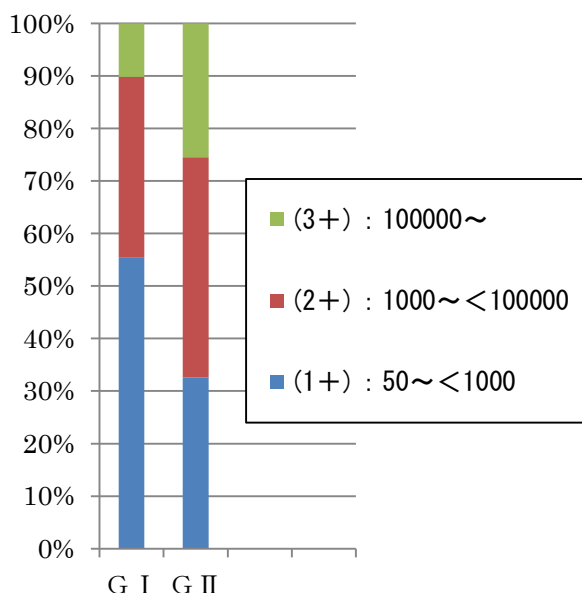
日本微生物研究所の統計では、便中ノロウイルスの不顕性感染者は3.56%(2016年1~12月)と高く、遺伝子型はほとんどGⅡ型が占めています。本人に症状がなくても腸管内に保有しているウイルスを排出する恐れがあり、感染対策が必要となります。

健康保有者=3.56%

遺伝子型別統計



陽性者簡易定量統計



- ・ノロウイルスは、感染力が非常に強く、わずか 10～100 個程度のウイルスで感染すると言われています。
- ・病院や老人ホーム、保育所などにおいては、一人がノロウイルスによる急性胃腸炎を発症すると、その嘔吐物や排泄物を処理する過程で感染が拡大することがあります。
- ・環境中に存在するウイルスは、しばらくの間生存することが知られています。環境がウイルスで汚染をされていると、ホコリなどと共に空気中にウイルスが漂い、それを口から接触することで感染が広がります。
- ・食品製造従事者の方はもちろん、学校や福祉施設等の従事者は感染対策として定期的にノロウイルス検査を行うことが重要です。

当検査センターで受託しているノロウイルス検査（RT-PCR 法）

便中ノロウイルス検査（GⅠ・GⅡ）リアルタイム PCR 法は最小検出感度が 50 コピーで、便 1g あたり 5×10^5 に相当します。また、イムノクロマト法や EIA 法とは異なり、すべての遺伝子型を検出することが可能ですので、健診等にどうぞご活用ください。

検体	指先大の糞便
検出可能な遺伝子型	① GⅠ 遺伝子タイプ 1～9（全 9 種） ② GⅡ 遺伝子タイプ 1～22（全 22 種）
検出感度	GⅠ・GⅡ 50 コピー/テスト
結果報告	受付より 3～6 日
結果表記	(-)～(1+)、(2+)、(3+) 検査結果は遺伝子型 GⅠ・GⅡ 別に簡易的定量表記します これによって陰性化までの所要時間の判断目安が付きやすくなります
保険点数	保険未収載

参考文献：日本微生物検査研究所ホームページ



福岡市医師会臨床検査センター

〒814-0001 福岡市早良区百道浜 1 丁目 6 番 9 号

TEL 092-852-1506（代） FAX 092-852-1510